

11月9日に初出湯



テクノスセキグチ

大物を皮切りに注湯



11月に電気炉更新

(株)テクノスセキグチ(関口雅英社長、川口市江戸袋)は鑄鉄の溶解に使う電

気炉を更新し、11月9日に初出湯を行った。約40年前に導入した炉が老朽化していたため、付帯設備や建屋の一部も改修した。1、2個の多品種少量生産にも対応しながら、より高品質の製品を供給できる体制を堅持する構えだ。

新たに設置したのは、富士電機(株)製の中古の低周波炉で、溶解能力は更新前と同じ1チャージ当たり2

ト。従来の低周波炉は10月19日に吹き止めし撤去した。炉体や電源ユニットなどの設置工事は(株)タイチク(兵庫県)関東営業所(埼玉県久喜市)が請け負った。

11月9日は13時過ぎに初

出湯。16時半頃に2回目の溶解を行った。不具合はなく、大物の製品を皮切りに、鑄込みなどの作業も順調に進んだ。今後、溶解を行う日には、1日3チャージで稼働する。炉体は築炉作業を施しただけで、操業に問題はないが、今後は「様子を見ながら、必要な場合はコイルの交換などを検討する」(大槻啓三テクノスセキグチ統括部長)方針。設備の更新を通じ、「より高い品質の製品を供給するとともに、おしゃかにするリスクを減らして、1回でクレームのつかない製品を歩留まり良くきちんと造る」考えた。

同社は射出成型機を中心とした産業機械用のねずみ鑄鉄(FC)や球状黒鉛鑄鉄(FCD)を生産している。川口新郷工業団地内の本社工場には電気炉や自動砂処理装置といった鑄造設備の他に、NC旋盤(立中グリ旋盤)や門型プレーナなど機械加工設備も装備。「図面1枚あれば、後工程の機械加工まで一括で対応できる」のが強みという。